

【速報】「臨時休館にともなう公民館活動のあり方に関する研究」調査結果

帝京大学教育学部丹間ゼミ

1. 研究の目的と方法

目的：新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日野市中央公民館（高幡台分室を含む）は2020年4月9日から6月1日まで臨時休館となった。本研究の目的は、このような状況下における公民館活動の状況と今後の展望を明らかにすることである。

方法：公民館の全ての登録サークル・登録団体の代表者宛に調査票を送付した（郵送法）。

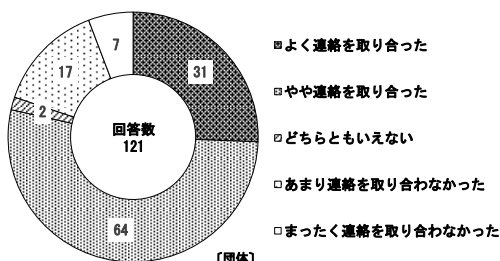
期間：2020年5月1日発送、5月31日返送〆切

回答：対象218団体中124団体（回収率56.9%）

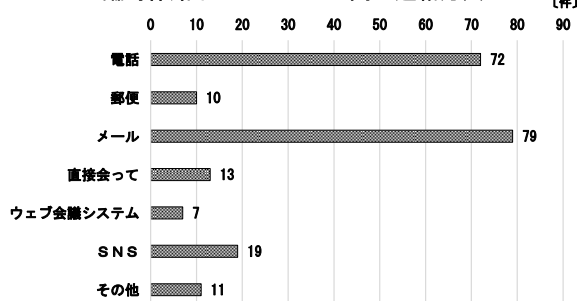
2. 結果と分析

（1）臨時休館にともなう公民館活動の状況について

臨時休館下でのメンバー間の連絡頻度

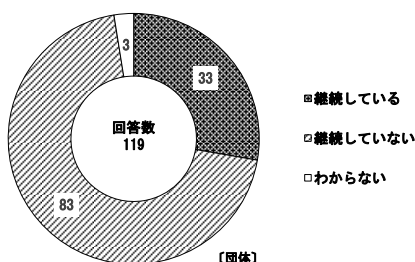


臨時休館下でのメンバー間の連絡方法



⇒ 臨時休館下でもメンバーと連絡していたサークルが多く、電話やメールが中心的な手段であった。

臨時休館下でのサークルの活動状況

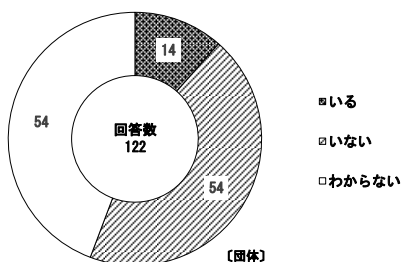


継続した取り組み（自由記述、抜粋）

- ・ ZOOM を取り入れたオンラインでの活動
- ・ 演奏会などをウェブで発信
- ・ LINE、Facebook のビデオ通話で日本語学習
- ・ マスクを作り、グループ LINE で情報共有
- ・ 自宅で書道作品を書き、郵送
- ・ 通常通り畑の草とりと河川の清掃作業

⇒ 活動を継続したという回答が約3割あった。個人単位での活動を続けたという例が目立った。

臨時休館下のメンバーの新たな活動や取り組み



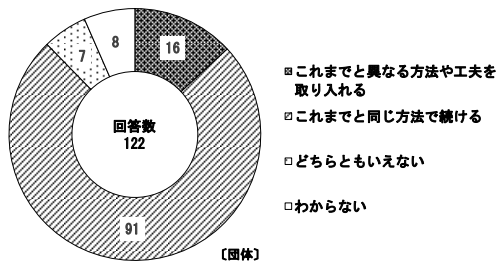
新しい取り組みの例（自由記述、抜粋）

- ・ 小学校の防犯パトロール（スクールガード）
- ・ Web 会議システムを利用した新しい取り組み（オンラインサロンなど）
- ・ SNS での演奏発信
- ・ マスクを作って知人にプレゼント
- ・ オンライン授業やオンラインゲームによる交流

⇒ 少数であるが新たな取り組みがみられ、WEB や SNS での作品や動画の発信等が行われた。

(2) 臨時休館後における公民館活動の展望

臨時休館後のサークル活動の続け方

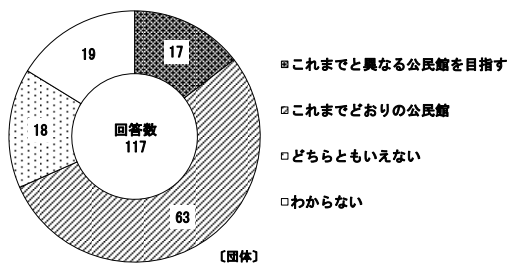


新しい活動についての案（自由記述、抜粋）

- ・大学の先生方の講義を受けたい
- ・オンラインシステムと併用して活動する
- ・会員全員の環境が整えば zoom で活動する
- ・WEB での講演会や見学会を開催する
- ・対外（屋外）で活動する

➡ これまでと同じ方法と回答したサークルが多かった。他方で、臨時休館を経てこれまでの活動を見直し、新しい方法や活動を見出そうとするサークルの姿も捉えられた。

臨時休館後の公民館のあり方



これからのあり方の提案（自由記述、抜粋）

- ・部屋の分割化等、濃厚接触しない方法での運用
- ・若い人と高齢者が一緒に活動出来る場が欲しい
- ・デジタル化の推進、講座の TV 放映、公運審等の zoom での実施
- ・今回のような公民館だよりの発行

➡ これまでどおりの公民館を希望するサークルが多かった一方、異なる公民館を目指す回答したサークルからは、オンライン等の環境整備や臨時休館時の対応について意見が寄せられた。

(3) 臨時休館を通して考える公民館の存在

公民館がこれまでどおり利用できなくなるなかで、あらためて回答者の方にとって公民館はどのような存在であるかを尋ねた。その結果、次のような回答が示された（自由記述、抜粋）。

- ・仲間と気軽に集まれる場であり、月 1 回の例会を楽しんでいたことをあらためて実感。
- ・人と人がつながり、共に学ぶことで、それぞれの人生が豊かになる、かけがえのない存在。
- ・公民館を利用できないのはとてもさみしいです。定期的なサークル活動があったのは、日々の生活の助けになっていたのだと痛感しました。私の場合は、会議に参加させていただいたり、公民館がとても身近であったので、職員の方々、利用者の方々などと何気ない会話をする事も、生活の一部になっていたんだと感じます。
- ・定期的な練習が出来なくなり、当初、生活リズムが乱れた。仲間と会う機会もなくなり、人と会い、会話することの大切さを痛感した。
- ・「学び」の場であるとともに「つながり」の場である。高齢者にとって、目的意識を持つことが元気につながる。

3. まとめと今後の展開

臨時休館下でも連絡を取り合い、活動において創意工夫をする公民館利用者の姿が浮かび上がったほか、公民館の存在意義をあらためて考えるきっかけにもなっていた。

今後、対象者を絞り込んで電話インタビューを実施して、臨時休館前～臨時休館中～臨時休館後の時間軸で、公民館という存在の普遍性と変化や展望を探究する。

以上